

学校経営推進費 事業計画書

1. 事業計画の概要

学校名	刀根山支援学校
取り組む課題	D 児童生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	・ 支援学校における児童・児童生徒、保護者の学校満足度の向上 ・ 支援学校における地域連携と外部への情報の発信
計画名	Re:Connect Academy（リコネクト・アカデミー） - 病気療養児童生徒への切れ目のない学びを、ICT とメタバースで再びつなぐ -

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画 の中期的目標	ICT を積極的に活用することで 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「学ぶ楽しさ」「学ぶ意欲」につなげる。
事業目標	1. 退院支援 × ICT 活用 「学びの継続支援プログラム」 ・ 入院中や退院直後の児童生徒が、ICT を活用してスムーズに学校生活に戻れるよう、個別最適化された学習プランを提供する。 「オンライン学習コーディネート」 ・ 退院後、地域校との学習進度を調整するために、学校・病院・家庭が連携し、オンライン教材やリモート授業を活用する。 「ピアサポートプラットフォーム」 ・ 入院中の児童生徒が、似た状況の仲間とオンラインで交流し、経験を共有するコミュニティを構築する。 2. アバターロボットの活用 「遠隔教室参加システム」 ・ 入院中の児童生徒がアバターロボットを使い、学校内を自由に動き回りながら地域校の授業に参加できる仕組みを構築する。 「ロボットを活用した協働学習」 ・ 地域校の児童生徒とアバターロボットを通じてグループワークや対話を行い、主体的な学びを促進する。 「アバターロボットでの特別活動」 ・ 各分教室や地域校を結んだ教科学習場面以外の活動（課外活動や行事）にも参加できる環境を整え、学ぶ楽しさや帰属意識を醸成する。 「病気療養中の高校生支援」 ・ 病弱支援学校のセンター的機能として、病気療養中の高校生の学習支援として高等学校へのアバターロボットを活用した学習継続支援の提案、サポートを行う。 3. メタバース空間の活用 「バーチャル教室での学び」

			・入院中の児童生徒がメタバース上で自由に学習できる 3D 空間を用意し、疑似教室体験を可能にする。 「仮想空間での体験型学習」 ・歴史の授業では過去の世界を体験、理科ではバーチャル実験を行うなど、メタバースならではの深い学びを提供する。 「メタバース内での社会参加プログラム」 ・入院中でも、バーチャル社会での職業体験やプレゼン発表の場を設け、実社会とのつながりを感じさせる。
取組みの概要	整備する設備・物品		TEMI ORIHIME タブレット端末 ノート PC
	前年度	取組み内容	○目標設定：基盤整備と実証実験を行い、具体的な運用方法を決定する 1. 退院支援 × ICT 活用 ・既存のオンライン学習ツール・プラットフォームの調査 ・病院・家庭・地域校との連携体制の確立 ・学習支援プラン（モデル設計） ・病院等での試験運用開始 ・退院予定児童生徒向けのサポートガイドの作成 2. アバターロボットの活用 ・アバターロボット導入の技術・コスト調査 ・ロボットの活用方法をモデルケースとして運用 ・実証実験を行う児童生徒・病院を選定 ・遠隔授業のテスト運用、事例の積み上げ ・高校生支援の具体的プランの構築 3. メタバース空間の活用 ・メタバースプラットフォームの選定・テスト環境構築 ・仮想教室の基本設計・開発者との打ち合わせ ・教材のデジタル化とメタバース適応性の検討 ・小規模試験運用
	初年度	取組み内容	○目標設定：試験運用を拡大し、フィードバックをもとに改善 1. 退院支援 × ICT 活用 ・モデルケースで「学びの継続支援プログラム」を運用開始 ・オンライン学習のコーディネーター（＝LS、情報支援部）を配置（連絡・調整役） ・児童生徒向けのピアサポートグループ（オンライン交流）開始 2. アバターロボットの活用 ・アバターロボットを試験導入 ・ロボットを活用したグループワークの実施 ・遠隔授業・行事参加の試験運用（音楽会、校外学習等） ・利用児童生徒の声を収集し、運用改善 ・高校生支援の広報および支援体制の構築 3. メタバース空間の活用

			・仮想教室の試験導入 ・一部の授業（社会・理科など）をメタバース化 ・仮想空間での交流会・体験活動（音楽会、社会見学）の試験実施
		2 年 め	○目標設定：本格導入・利用対象の拡大 1. 退院支援 × ICT 活用 ・展開の拡大開始 ・病院・家庭・学校との ICT 連携強化 ・ピアサポートネットワークの拡大 2. アバターロボットの活用 ・運用実績をもとに拡大展開開始 ・ロボットを活用した協働学習プログラムを検討 ・行事・特別活動（運動会・修学旅行など）への参加機会の増加 ・高校生支援の実際の実績を基に内容をブラッシュアップ 3. メタバース空間の活用 ・メタバース学習の授業科目を拡大 ・バーチャル実験室や体験型学習の充実 ・メタバース内での発表会・職業体験を常設化
		3 年 め	○目標設定：安定運用と高度化 1. 退院支援 × ICT 活用 ・個別最適化 AI 等を活用した学習支援システム導入 ・成功事例を基に、カリキュラムの高度化 ・退院支援プログラムを学び直しにも応用 2. アバターロボットの活用 ・ロボットを活用した新たな協働学習の整備（VR/AR 連携の模索） ・企業・大学等との連携等による研究開発支援の模索 ・多数の事例を取り入れた更なる改善 3. メタバース空間の活用 ・AI 等の先進技術を活用した個別指導の導入 ・仮想キャンパスでの多文化交流・国際共同授業の模索 ・産業界との連携強化し、メタバース内での職業訓練プログラム等の模索
	取組みの 主担・実 施者		取組みの主担者：首席、LS、情報支援部 取組みの実施者：全教員
成果の検証方法と評価指標		初 年 度	1. 退院支援 × ICT 活用 児童生徒 「地域校のように、学習に参加できていると感じる」（５段階） 「オンライン学習でわかりやすかった単元は？」（自由記述） 保護者 「退院後、学習面で安心できた」（５段階） 教員 「地域校と連携した学習支援ができた実感がある」（自由記述） 「連携（家庭・病院）で困った点」（自由記述） 2. アバターロボットの活用 児童生徒 「教室にいるかのように授業に参加できた」（５段階）

		「アバター越しでも会話しやすかった」（５段階） 「一緒に活動して楽しかったこと」（自由記述） 「クラスの友だちとつながれたと思う」（自由記述） 教員 「アバターを使った児童生徒の反応や集中の様子は？」（自由記述） 3. メタバース空間の活用 児童生徒 「メタバース内での学習は楽しかった」（５段階） 「印象に残った学び・シーン」（自由記述） 保護者 「子どもが楽しそうに学習していた」（５段階） 「取り組みやすかったかどうか」（自由記述） 教員 「メタバース授業での教えやすさ」（５段階） 「準備や指導上の課題」（自由記述） ※過半数の肯定的意見 ※年間を通して、各項目２回以上の実践事例の蓄積
	2 年 め	1. 退院支援 × ICT 活用 児童生徒 「地域校のように、学習に参加できていると感じる」（５段階） 「ICT を使って退院前にできたこと」（自由記述） 保護者 「児童生徒の復学への不安軽減効果があったか」（５段階） 「復学までの流れがスムーズだったか」（自由記述） 教員 「継続的な支援ができていると感じるか」（５段階） 「ICT の活用が学習支援にどう影響したか」（自由記述） 2. アバターロボットの活用 児童生徒 「ロボットを通じて授業への一体感を感じたか」（５段階） 「遠隔参加の友達と協力したときの感想」（自由記述） 「クラスの一員として活動に参加できたか？」（５段階） 教員 「グループ活動などでの参加度に満足できたか」（５段階） 「ロボット管理に困ったこと」（自由記述） 3. メタバース空間の活用 児童生徒 「メタバースでの授業で新しい発見があった」（５段階） 「リアルよりよかったと感じた点」（自由記述） 保護者 「仮想空間の活用が学習にプラスになった」（５段階） 「今後も続けてほしいと感じるか」（自由記述） 教員 「対話的・深い学びを実現できたと感じる」（５段階） 「どの科目で効果があったか」（自由記述） ※過半数の肯定的意見 ※年間を通して、各項目３回以上の実践事例の蓄積
	3 年 め	1. 退院支援 × ICT 活用 プログラム利用児童生徒「退院支援プログラムが役に立ったと思うか」（５段階） 「どの部分が最も支えになったか」（自由記述） 保護者 「連続的に見て ICT 支援は意味があったと感じるか」（５段階） 「子どもの復学に影響したこと」（自由記述） 教員 「これからも継続すべき取り組みだと感じるか」（５段階）

	「制度として改善したい点」（自由記述） 2. アバターロボットの活用 児童生徒 「ロボットの活用は入院中の学校生活に意味があった」（５段階） 「最も思い出に残っている活動」（自由記述） 保護者 「アバターを通じた学習参加が子どもにとって学習の励みになった」（５段階） 教員「アバターを使った授業が定着したと感じるか」（自由記述） 「発展的な活用アイデア」（自由記述） 3. メタバース空間の活用 児童生徒 「メタバース授業が将来の学びに影響したと思う」（５段階） 保護者 「メタバース空間での活動が子どもの成長につながった」（５段階） 教員 「仮想空間の活用が現実の教育と融合してきた実感があるか？」（自由記述） 「次にめざすべき教育像」（自由記述） ※過半数の肯定的意見 ※年間を通して、取組みの常態化
--	--